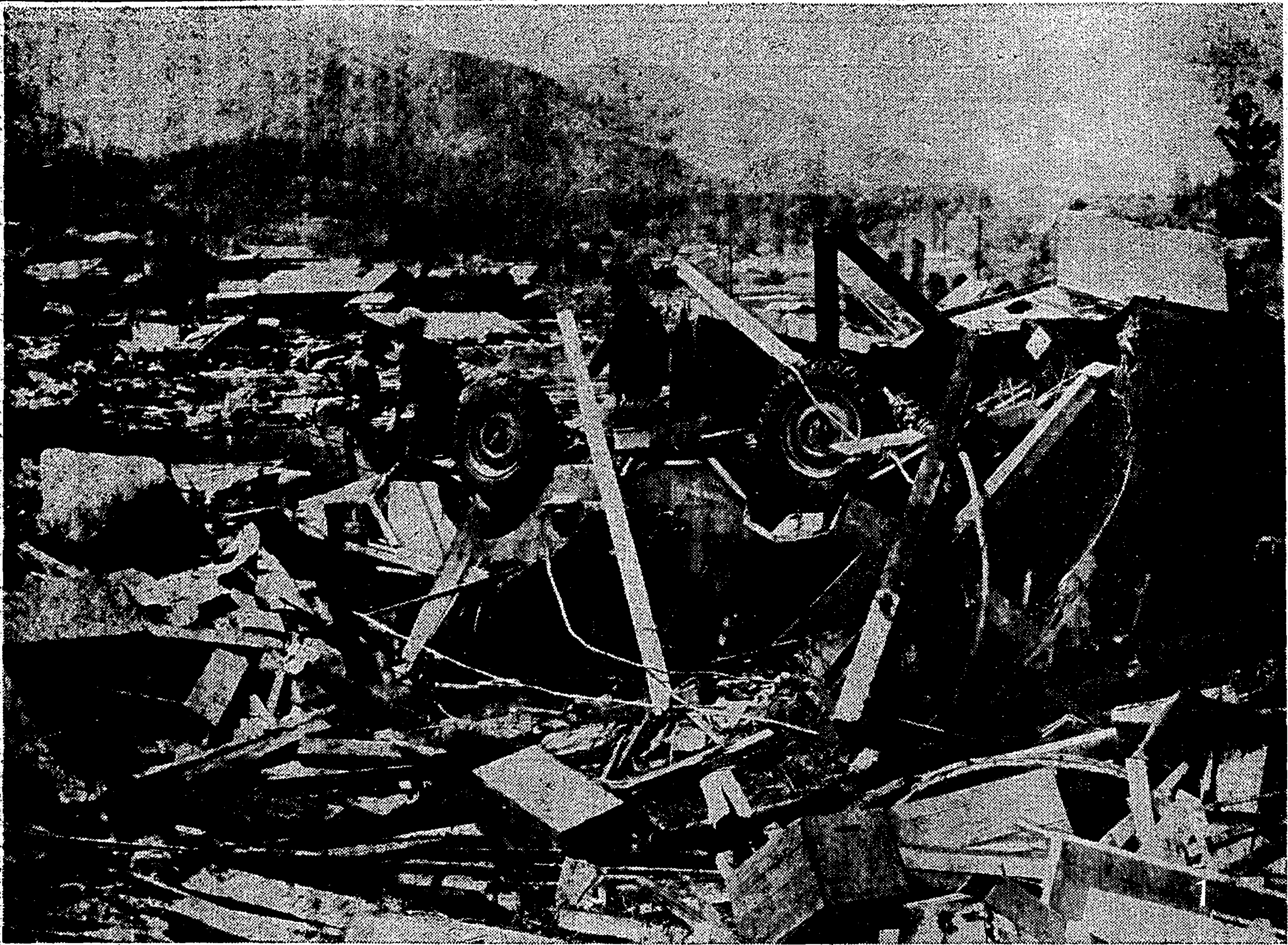


泥海と化した

ツメ跡の上を飛ぶ

人影もなく無気味

大船渡〝黒いウズ〟陸地に逆流

【共同特別機にて堀江記者】三陸沿岸の津波のなまなましい被害をみるため、記者は二十四日午前十時三十五分霞ノ目空港を飛び立った。離陸して十数分。

絶景松島も灰色の海

松島湾沿岸が眼下にひらけウズまいている多数流木や漁船二十隻ー三十隻が無残にも海岸に打ち上げられているのが印象的だ。飛行機の高度は五百㍍塩釜港や松島一帯は灰色の海だ。間もなく午前十一時、石巻上空にさしかかる。

[illegible] だく水流れドロ海

石巻港からはき出された灰色のだく水が海に流れ、ドロ海と化している。女川町（人口一万七千）は流木のため町内三分ノ一がその下に埋まっているようで、被害の大きさを物語っている。同十一時十分被害のもっとも大きい気仙沼、大船渡方面に急ぐ。

高台に動く避難民

高度六百、さらに北上した。志津川港では海岸に近い二〜三十戸が倒壊、無数の流木が海岸一帯にくい込み打ち込んだようにささっているほか、水田もドロ沼のように荒らされているのが手にとるようだ。漁港の気仙沼はイカダが港から約三㌔の沖合いまで流され、それが海岸の方に向かっている。すごい勢いで逆流して来るのがはっきりとみられ避難民が高台の方にアリのように小さく動いている。ここにも港に近いところ約三百戸が浸水しているほか、人影という人影は見えない。

木で埋まる高田の道

陸前高田市も被害がひどく、自衛隊の臨時着陸基地は完全に水没し水びたし、その上に三隻の漁船が打ち上げられている。道路という道路は流木で埋まりつくされている。

屋根から助け呼ぶ人

海岸には五、六隻の漁船が打ち上げられ、港から二十㌔の沖合いに、流木に囲まれた百平方㍍ほどの半壊の二階建て一軒が流されている。五、六人の家族が屋根から助けを求めている。この家の近くに小型漁船が救助のためドロ海の中を急いでいる。記者はこの家族が無事救助されるのを祈りながらさらに北上、大船渡に向かった。

大型貨物船が大傾斜

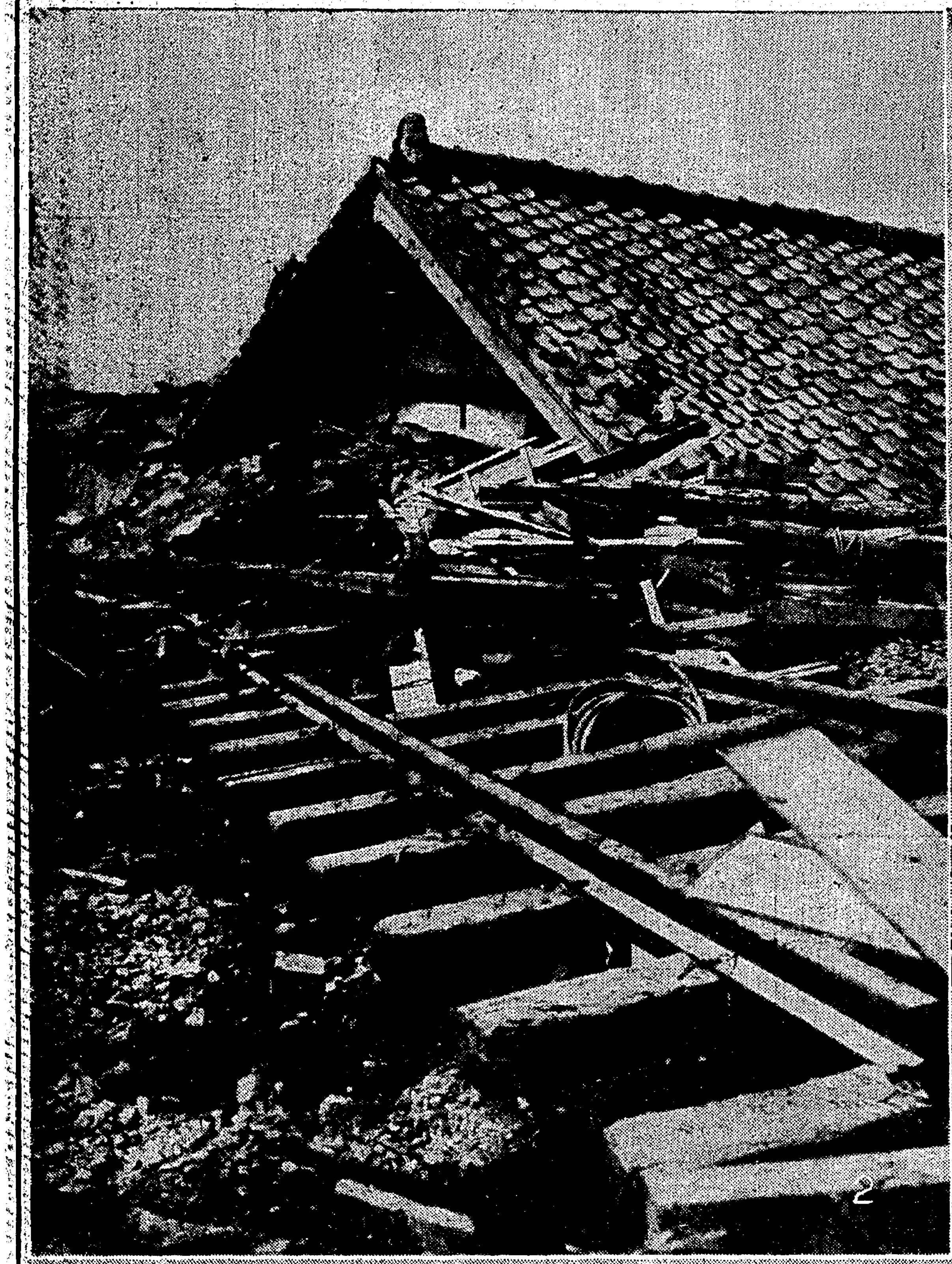
もっとも被害のひどい大船渡は、港口から三㌔平方にわたって流木がみられ、十二時十分、高度をグンと下げ二百㍍で飛んだ。小野田セメント工場岸壁にけい留されていた一千㌧級の大型貨物船が四五度に傾斜し、ここでも船腹をみせ大波に巨体をよせていた。陸前高田でもみられたドス黒いウズがはやてのように流木を乗せ、グングン陸地を目指してすさまじい勢いで逆流してゆく。

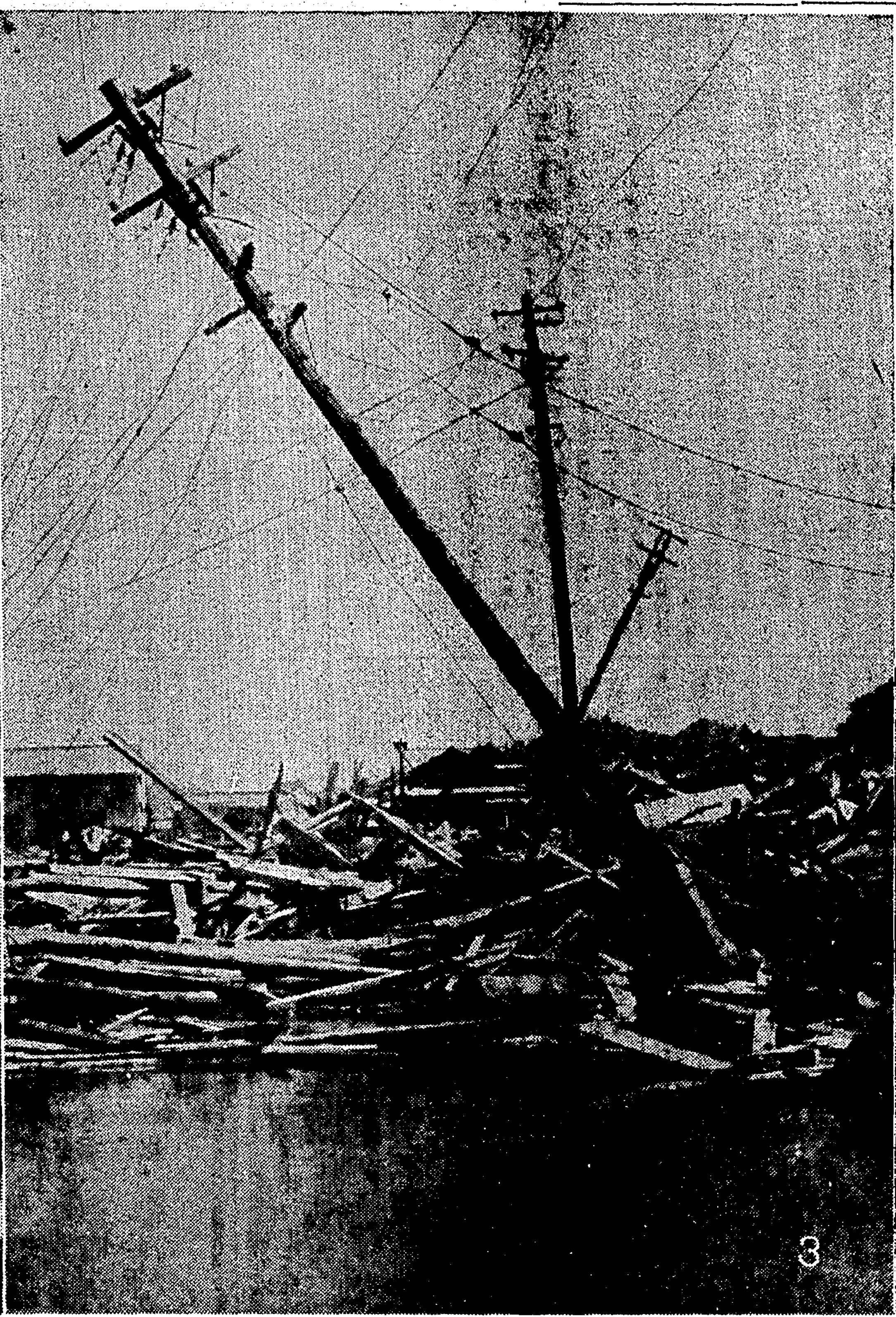
大船渡〝死の町〟に

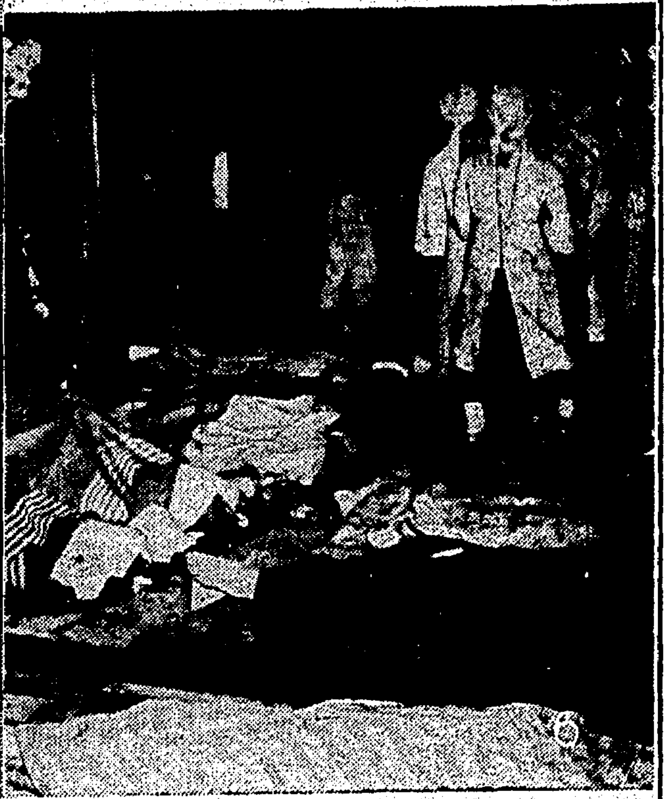
五㍍もあろうか、大波となって陸地に押し寄せている。この町はまったく人影もなく〝死の町〟と化していた。

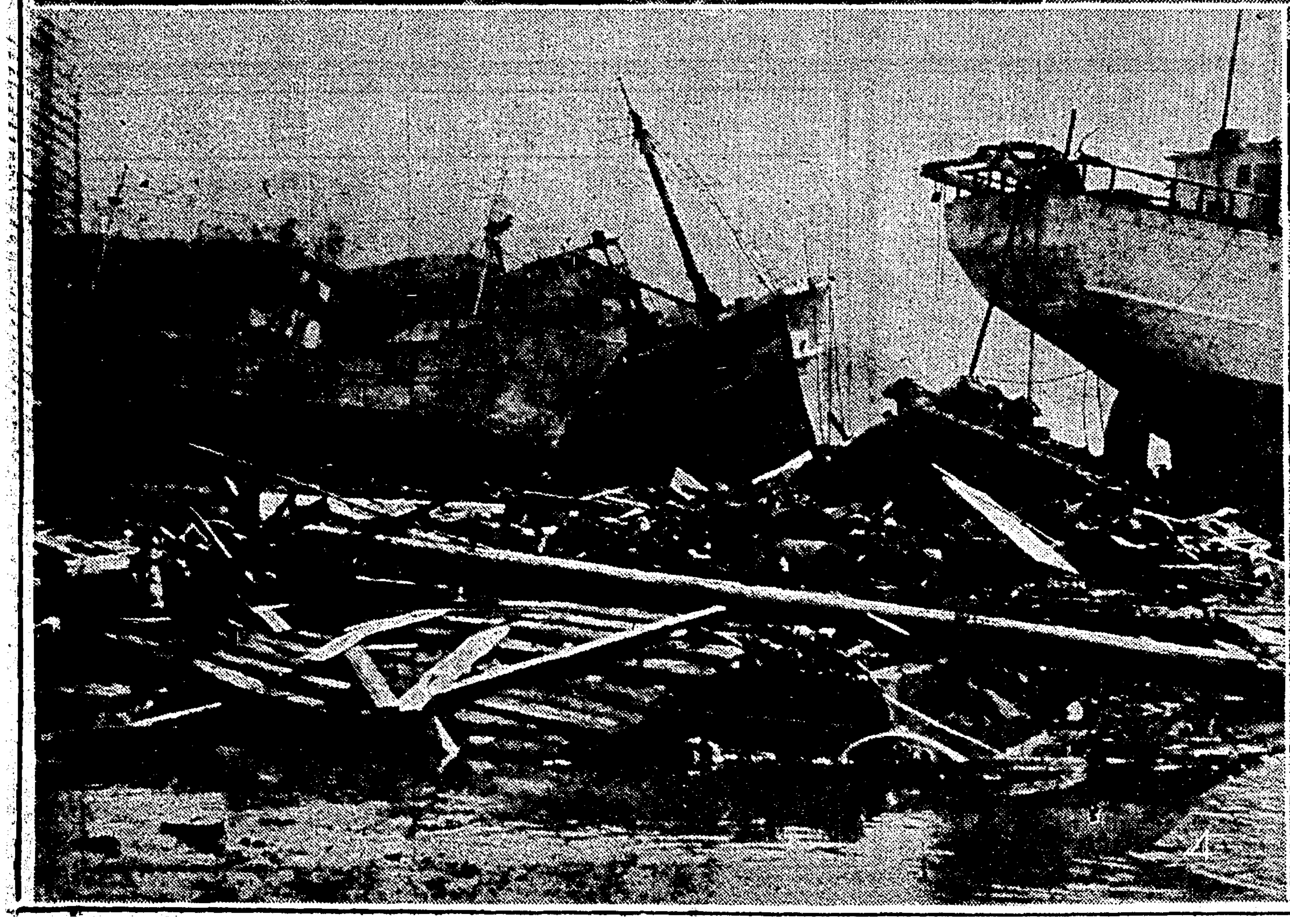
惨害の大船渡市

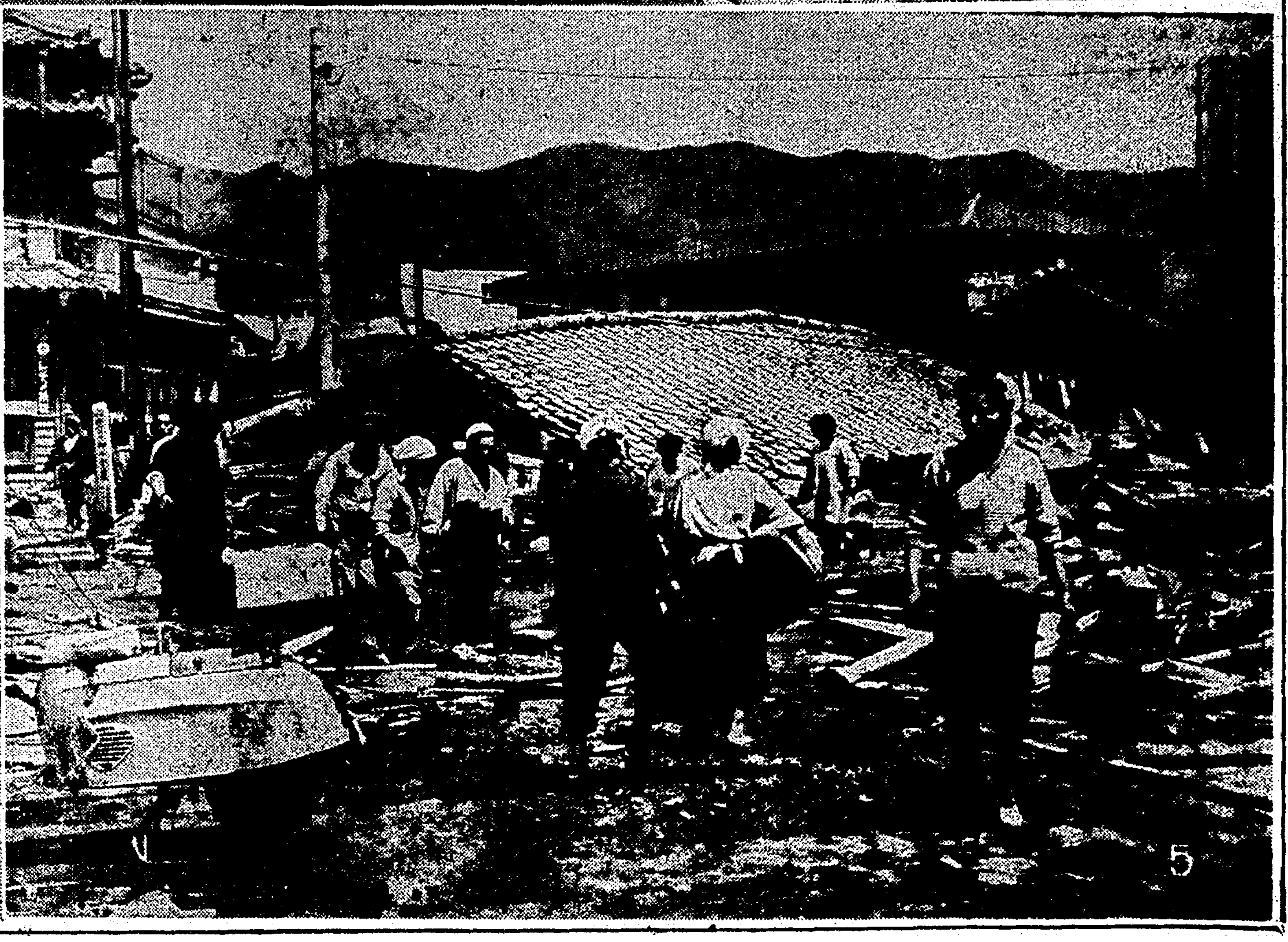
① 道路両側の住家がメチャメチャになった大船渡市赤沢付近
② 大船渡駅構内の線路上に押し上げられた家屋
③ 無残に倒れた大船渡町内の電柱
④ 大船渡魚市場岸壁に持ち上げられた漁船
⑤ 大船渡駅前の道路の真ん中に押し流されてつぶされた倉庫
⑥ 大船渡市西光寺に収容された遺体


2


3


6


4


5

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。